

アフリカの社会文化を学ぶーグローバル化を周辺部から考える
ウガンダ・マケレレ海外研修プログラム

【テーマと目標】

「遠い世界」と思われがちなアフリカの現在を身近に知るために、都市での滞在（ホームステイ）、村落での滞在を織り交ぜたプログラム。ウガンダの社会・文化についての事前学習内容には、現地の研修期間に東アフリカ最高峰大学マケレレ大学のウガンダ人教員とウガンダ人学生によるコメントが与えられる。在ウガンダ日本国大使館、青年海外協力隊事務所訪問、NGO の活動現場視察。人々の生活の中で息づく呪術を司る呪術師訪問、難民キャンプ訪問もくみこむ。今日のグローバル化のもう一つの面、グローバル化で割をくっている側でもあるサブサハラアフリカを単に「援助対象」や「開発」の遅滞（日本のメディアではその扱が多い）という目で見るとはならず、同時代の人間が暮らす社会・文化という側面からとらえなおすことができる。「援助対象」ではなく、同時代に生きる地球上の人類として、同伴者としてアフリカ社会を認識する手がかりとなる知見と経験を身につけることをめざす。

【日程】※ウガンダ海外研修日程に変更あり

（募集）平成 28 年 5 月 18 日～平成 28 年 5 月 31 日

（選考）6 月上旬面接を予定。

平成 28 年 6 月 13 日～平成 28 年 7 月 30 日（国内事前研修 4 回）

~~平成 28 年 8 月 17 日～平成 28 年 8 月 31 日（ウガンダ海外研修 15 日間）~~

平成 28 年 8 月 22 日～平成 28 年 9 月 5 日に変更予定（前後数日の変更はありうる）（ウガンダ海外研修 15 日間）

平成 28 年 9 月 10 日～平成 28 年 9 月 25 日（事後研修 1 回）

【担当教員】

梅屋 潔（国際文化学研究科）umeya@people.kobe-u.ac.jp E 405 研究室

【募集人員】

5 名程度（国際文化学部／国際文化学研究科正規学生）

【経費関係】

自己負担総額約 33 万円を予想。基準を満たした場合には、選考により、6 万円ないし 5 万円の奨学金が支給される。

【研修先での使用言語】

英語

【準備】

事前研修の過程で航空券や宿の手配なども教員と相談しつつ参加者の責任で全員で行う。

『ウガンダを知るための 53 章』（明石書店）を入手し精読すること。それを参考にしながらウガンダあるいは東アフリカの社会・文化についての 20 分ほどのプレゼン（パワーポイント使用）を準備する。帰国後、プレゼン原稿とデータ、日記、および報告書を提出すること。

【内容】

1. 在ウガンダ日本大使館、JICA、JOCV 事務所表敬、現地の仕事について説明を受け見学。
2. マケレレ大学社会科学部の教員、学生を交えて、当方で準備したプレゼンについて議論する。
3. カスビの墓（世界遺産）をはじめとし、ブガンダ王国の墓所を中心とした文化的遺構を、ブガンダ王国のプリンスの案内でツアー。その墓を中心に王国の歴史を学ぶとウガンダの近代史も重なって見えてくる。遺構のそのいくつかは、観光ガイドにも載っていない聖地。
4. 首都カンパラの一般家庭でホームステイ、ウガンダ人と日常の食事を一緒に作り、食べる（主食はバナナなど）。
5. 首都カンパラのマーケット見学（泥棒に注意）。
6. 首都とは対照的な田舎の生活を体験する。サバンナのサファリ体験。電気・ガス・水道無しの田舎暮らし。
7. 現地で活動する NGO のプロジェクトを見学する。
 - (1) マイクロクレジット。頼母子講。
 - (2) 会員制信用金庫。
 - (3) 有機農法。
 - (4) ハイブリッド作物の普及。
 - (5) 診療所。
 - (6) 女性の権利向上についてのセミナー。
 - (7) 技術訓練。バイク修理と裁縫。（ここには微妙にジェンダーが…）。
 - (8) はちみつの工場運営。
 - (9) 効率的な CO2 削減かまどの普及事業。
 - (10) ため池での魚の養殖。
8. 難民キャンプの訪問：ウガンダは古くから牧畜民カリモジョンの牛略奪に悩む近隣民族の難民と 1986 年ムセベニ政権成立後に勃興した反政府軍ゲリラ「神の抵抗軍」の襲撃による難民キャンプ生活がかたまりしている人々がいる。
9. ナイルの源流を訪ねるボート・クルージング。
など（予定。昨年の計画を基準に設計。調整の結果変わることがある）。

【選考】

応募者多数の場合、書類選考の他、6月上旬に行う面接、GPAなどを加味して選考する。